

優秀船ノ競争場タリシ觀アルハ主トシテ政米  
問來往ノ移民其ノ要因タルノ事實ヲ一考セハ  
思半ハニ過クルモノアラム

九 主要貨物ノ輸出奨励

本邦特産品其ノ他主要貨物ノ輸出ヲ一般ニ奨  
励スルト同時ニ或種ノ輸出品ニ對シテハ其ノ輸送  
船舶ノ国籍如何ニ拘ラス特ニ鉄道運賃割  
引ヲ行フノ必要アリト認ム



海事委員會造船維持ニ関スル  
特別委員會答申案



戦後ニ於ケル造船業ノ維持發達ニ関スル根本方  
策ニ就テハ曩ニ臨時財政經濟調査會ニ於テ十分  
ニ審議セラレタル所ニシテ右調査會ノ答申ニ於ル具  
体的方法ヲ摘記スレハ左ノ如シ

甲 一般の保護

一 本邦造船業發達ノ現状ニ鑑ミ從來ノ造  
船奨励法ノ如キ保護ノ方法ハ造船保護  
政策トシテ策ノ得タルモノニ非スト認ム

二 本邦造船業者ヲシテ海外造船業者ト



材料ノ取得ニ付對等ノ地位ニ近ツカシムカ  
為船舶(艦船艇ヲ含ム)ノ製造及修繕ニ使  
用スル鋼材木材ノ輸入税ヲ免除スル必要  
アリト認ム又船舶(艦船艇ヲ含ム)ニ使用スル  
艦裝品又ハ機関及其ノ部分品(手製品  
ヲ含ム)ハ本邦ニ於テ製作困難ナル特殊品  
又ハ新規發明品ニ限リ之カ輸入税ヲ免除  
スルモノトス

三 政府ノ用ニ供スル船舶(艦船艇ヲ含ム)ハ原

則トシテ之ヲ内地造船所ニ製造セシムルヲ可  
トス

四 航路補助法等ニ依リ内地製船舶ノ使  
用ヲ獎勵スル政策ハ將來ト雖之ヲ継続ス  
ルヲ可トス

五 船舶輸入税ハ適當ニ修正ノ上之ヲ存置  
スルヲ可トス

六 船舶金融ニ就テハ長期低利且豊富田ニ  
資金ヲ融通シ得、キ途ヲ開キ特ニ利便



ヲ喫フル方策ヲ講スルヲ要ス

七 船舶研究所ハ本邦造船業ヲ根本的ニ改良スルノ基礎ナルヲ以テ政府ニ於テ直ニ之カ設立ニ著手スルヲ要ス

乙 優秀船及特殊船ニ對スル特殊保護優秀船及特殊船ノ保護ニ付テハ造船費ヲ補助シ尚平時ニ於ケル航運費ノ一部ヲ補償シ其ノ維持ヲ圖ルニ要アリ

臨時財政經濟調査會ニ於ケル答申案作成ノ

時期(大正九年末)迄ノ本邦船舶界ノ狀況ニ基テ造船業ノ維持發達ニ関スル根本方策ハ右ノ答申ニ於テ盡クサレタリ而シテ政府當局ニ於テハ右ノ方策ノ内既ニ實行セラレタルモノアリ又今後ノ實行ニ待ツヘキモノアリ然ルニ最近華盛頓ニ於ケル軍備制限會議ノ協定ハ世界ノ經濟界ニ新紀元ヲ劃シ各國競フテ平和的經濟戰ニ熱中シ就中貿易ノ發展、海運ノ擴張ニ其ノ全力ヲ傾注スルヤ明ナリ從テ我邦ニ於テモ此ノ世界ノ大勢



ニサ 執スルノ方策ヲ樹ツルハ今日ノ急務ナリト信  
ス且ツ夫レ前記軍備制限ニ伴フ製艦休止ハ忽チ  
製艦関係事業ヲ萎菲セシメ一朝有事ノ際直  
ニ軍需ニ應スル能ハス為ニ国防ニ缺陷ヲ来シ他面  
一時ニ多数ノ失業者ヲ出タス等其ノ影響ノ及  
フ所頗ル憂フヘキモノアルヲ以テ茲ニ曩ノ臨時財政経  
濟調査會答申ノ方策ヲ基礎トシ更ニ前記ノ時  
弊ヲ匡正シ我國運ノ發展ヲ期待シ得ヘキ目々体  
的方策ヲ講スルノ必要アルモノト認ム

一 政府用艦船ヲ内地民間造船所ニ製造セシムルコト  
政府ノ用ニ供スル艦船ハ原則トシテ之ヲ内地民  
間造船所ニ製造セシムルノ件ハ政府當局ニ於  
テモ常ニ十分ニ考慮セラレ来リタル所ニシテ海  
軍艦船艦ハ出来得ル限り又内務省農商高  
務省逓信省鐵道省等ノ用ニ供スル船舶  
ハ總テ之ヲ内地民間造船所ニ製造セシメラレ  
タルヲ以テ民間造船所ハ堅守員ニ活躍シ造  
船技術ニ查練磨セラレ来リ殊ニ造艦計畫



ハ造船界ノ刺戟鞭達ニタル處甚大ニシテ幾  
多ノ造船所ハ右造船計畫ノ遂行ニ遺漏ナキ  
ヲ期スル為銳意設備ノ改良擴張茲技師  
職工ノ充實ニ全力ヲ盡クシ今ヤ十分ノ準備  
成リ着々實行ニ移リツツアリタル際突如國  
際的軍備制限協定ニ因リ艦船艦ノ製造  
激減セムトシ之カ為多年多額ノ國帑ヲ費  
シ且官民間係者ノ甚大ナル如カノ結果  
今日ノ程度ニ發達シタル造船技術ハ

備茲技師職工ノ技能ノ荒廢ヲ奉サムトスルハ勿  
論之ニ因ル製艦關係事業ノ縮少ニ甚キ技  
萬ノ失業者ヲ出サムトスルノ危機ニ迫レリ依テ此  
ノ降職工ノ失業ヲ防止シ且造船能力ヲ維持  
スル為政府ノ用ニ供スル艦船ヲ内地民間造  
船所ニ製造セシムル件ハ益々必要ナルヲ以テ一層  
徹底的ニ之ヲ實行セラレ其ノ按配ニ付テハ海  
軍省其他ノ各省ト邊信省トノ間ニ於テ常  
ニ十分ノ協調連絡ヲ保タルノ必要アルモノト認



二 造船設備ノ轉換利用方法

造船設備ノ維持及職工失業ノ防止ニ最モ適切ナル方策ノ一ハ鐵道、電車、水力電氣、建築、橋梁、港灣、飛行機、自動車等關係ノ鉄工工事ヲ造船工場ニ振向ケルコトナリトス  
依テ政府事業及公共團體ノ事業ニシテ右ニ掲ケタル如キ鉄工工事ハ可及的ニ之ヲ造船工場ニ振向ケル様政府ニ於テ適當ノ方針ヲ

樹テラレハコトノ如キム

三 五十萬噸造船計畫

今海國トシテノ本邦ノ世界的地位ト現在船舶ノ實質トヲ考慮シテ船舶需要ノ方面ヲ案スルニ北米航路ニ就テハ北ハ加奈陀太平洋鐵道會社ノ新船ニ對抗シ南ハ米國ノ「ステート」型船ニ對抗スル為優秀船ヲ配置スルノ要アルヘク又歐洲航路、南米、南亞、濠洲、南洋方面ノ定期航路使用船舶ノ改善、東洋並海



諸航路ノ高速連絡、北方ニ於ケル活躍ニ必要ナル耐氷船、碎氷船、食糧問題解決ノ助トモナルヘキ冷藏船、燃料油利用増加ノ要求ニ副フヘキ油槽船、其他大半小型貨物船等列舉シ来レハ時勢ニ適應スル改良型船舶需要ノ途ハ蓋シ多種多端ナリ、又一面ニ於テ本邦現在ノ登簿鐵鋼製汽船ノ船齡別ヲ見ルニ船齡二十年以上ノモノ實ニ總噸數ニ於テ約四分ノ一ニ達シ居レル實況ナルカ目

下經濟界不振ニシテ世界の競争益々激甚ナラムトスル際、船費ノ輕減ト收益ノ増加トヲ圖ル為メ此等不經濟ナル老齡船ハ一日モ早ク新式ノ經濟的船舶ヲ以テ置替フルノ必要アリ、以上ヲ考慮シテ新船需要ノ概數ヲ計上スレハ別表ニ示スカ如ク、合計約五十萬噸ニシテ製造費ノ合計ハ約二億二千萬圓トナル、翻テ製艦休止ノ期間ニ於ケル本邦造船能力ヲ維持セムトスル為メ前項ニ掲ケタル造船設備ノ轉



換利用方法ノ遂行ニ依リ造船設備ノ維持及  
職工失業ノ防止ニツキ或程度ノ目的ヲ達スヘキモ苟  
モ造船技術ヲ維持發達セムトスルニハ專ラ高船ヲ  
建造スルノ外他ニ途ナシ而シテ曩ノ臨時財政經  
濟調査會ハ本邦ニ於テ毎年新規ノ需要茲ニ  
減少船ノ補充ニ要スヘキ噸數ヲ約三十六萬噸ト  
推算シ之ヲ以テ毎年我國ニ於テ建造スヘキ高船  
ノ製造高ノ目途ト為シタルカ各造船所ハ右高  
船建造能力ヲ具備スルノ外海軍擴張計畫ニ

應シテ造船能力ノ増大及整備ニ力ヲ盡シ現ニ有  
スル海軍關係工事ハ之ヲ普通ノ高船工事ニ換  
算スルトキ八年當約四十萬噸ニ相當ス依テ目  
下本邦造船能力ヲ維持スルニ必要ナル造船高  
ハ之ヲ高船噸數ニ換算スルハ一年約七十六萬  
噸トナル然ルニ軍備制限協定ニ依リ主力艦建  
造ヲ中止セラレヘキヲ以テ今後内地民間造船所  
ニ於テ有スル巡洋艦以下ノ海軍艦艇ノ工事  
ハ之ヲ高船噸數ニ換算スルハ一年約二十五萬噸



ニ減少シ又海運界ノ不況ニ因リ本年中ニ建造セラ  
ルヘキ高船ハ約十五萬噸ニ過キサルヲ以テ向後一ケ年  
民間造船所ニ於テ有スヘキ工事ハ合計約四十萬  
噸トナリ前記本邦造船能力ヲ維持スルニ必要ナル  
造船高七十六萬噸ニ及ハサルコト三十六萬噸ナリ  
然レトモ今次非常ノ際右不足額三十六萬噸ニ對  
スル新造計畫ヲ實行スルコト到底望ミ難シ故ニ  
貿易ノ發展海運ノ擴張ニ必要ナル前記ノ新造  
計畫ヲ以テ造船技術ノ維持ニ充當セル一ケ年正

得ノ策ナリト認ム

右造船計畫ハ大型高級船ヨリ普通貨物船ニ至ル  
アラユル船型ヲ含ムヲ以テ各種大小ノ定期航路  
ヲ經營スル海運業者並不定期貨物船ヲ運用  
スル海運業者ノ業務發展ニ適シ一面ニ於テ大小  
各種ノ造船業者ノ最小限度ニ維持スルコトヲ得ヘシ  
而シテ右五十萬噸造船計畫遂行ノ成否ハ  
實ニ次項ニ述フル造船資金ノ融通及特殊保  
護ノ問題ニ懸ルモノト認ム



四、造船低利資金の融通

船舶金融の件ハ其表ニ臨時財政経済調査會ノ答申アリタル以來政府當局ニ於テ未ダ何等ノ具體的方法ノ講ヒラレタルモノナルヲ聞カサルモ今次ノ軍備制限核定カ造船界ニ及ホス影響ノ重大ナルコト既述ノ通りナルヲ以テ英國、北米合衆國、佛國、加拿大等ニ於ケル政府ノ造船資金融通又ハ政府ノ優秀船舶所有ニ依ル保護ノ色彩愈々顯著ナルニ鑑ミ此ノ際軍備制限ニ依



リテ得ラルヘキ財政上ノ餘裕ノ一部ヲ造船費  
金ニ振向ケルノ必要アルモノト認ム而シテ右ノ  
計畫ニ對スル希望ノ要項ハ左ノ如シ

一 資金融通ノ目的ヲ内地民間造船所ニ於

テ建造スル船舶ニ對スル造船資金ニ限定ス

ルコト

二 貸付期限及返還方法ニ就テハ最初ノ五ヶ

年間据置トシ以後二十ヶ年年賦償還セシ

ムルコト

三 利率ハ最初ノ五ヶ年間無利率トシ以後年

四分乃至五分ヲ支拂ハシムルコト

右ノ計畫ニ對シ略幾何ノ資金ヲ必要トスルヤ

ノ案スルニ前掲第三項ニ記述シタル各種船

型合計計約五十萬噸建造計畫實行ニ伴フ

造船費ノ總額ハ約二億二千萬圓ニシテ右

大型戦艦三隻ノ建造費ニ該管ニ右造船

工事ハ數年ニ跨ルルヲ見込ナルヲ以テ右資金

ヲ準備スル為國庫ノ支出スル千金額年度割



ハ最高五千萬圓對外。過ソルハ  
五優水船及特殊船ニ對スル特殊保護

航路補助等ニ依リ、内地製衣造船ノ使用  
ヲ將大勸スル政策ハ將來ト雖モ之ヲ繼續ス  
ルヲ可トスルハ勿論前掲五千萬噸造船計  
畫ヲ可能ナラセムル為ニ軍備制限ニ依リ  
得テ一キ経費節減ノ一部ヲ割キテ特  
大型ノ高級高速船及特殊船ニ對シテ時宜  
應ニ各種最少限度ノ航路補助費ヲ支出スル

ニト必要ナリト認メラルル且夫レ前掲五千萬噸  
計畫中北米航路使用船ノ如キハ製衣造船費及  
運航費多額ヲ要シ経営困難ノ點アルニト  
認メラルル而カモ右ノ如キ優水船ヲ建造シ之  
ヲ世界交通ノ幹線ニ配置スルコトハ國家  
的見地ヲ最モ緊要事ニ屬スルヲ以テ若シ  
前掲ノ造船資金融通及航路補助ノ方  
策ニ依リテモ尚且實現困難ナルニ於テハ  
外國ノ例ニ倣ヒ政府ニ於テ之ヲ所有シ其ノ



運航ノ營業者ニ委託スルノ方法ヲ採ルノ  
必要アルハト認ム

六 船舶輸入税ノ修正

船舶輸入税ハ適當ニ修正スル之ヲ存置スル  
ヲ可トスルノ件ハ愈々其ノ必要ヲ認ムル所ニシ  
テ試ニ修正案ヲ提出セムニ現行關稅定  
率法ニ依ル船舶輸入税率ハ現今ニ比較シ  
テ船價低廉ナリシ明治四十二年ニ制定セラレタ  
ル所ナリ然ルニ爾來船價ハ諸物價ノ騰貴ト

共ニ著シク騰貴シテ今尙約一倍ニ當リ依  
テ右輸入税率制定當時ノ儘ノ趣旨ニ依リ  
右船價ノ騰貴ニ比例スル程度ニ關稅ヲ改  
定シテ之ヲ新旧船舶ニ對シテ一率ニ適用セラレ  
ムコトヲ望ム

右ニ關聯シテ關東州ノ輸入船舶課稅件  
ニ言及セサルヲ得ス

關東州ニ於テ船舶ノ輸入税ヲ課セサルヲ以テ  
本邦船主ニシテ外國古船ヲ購入シテ同地ニ航



籍ヲ置キタル者尠シトセズ最近再々外國ヨリ  
古船ヲ購入セムトスルノ傾向顯著ニシテ此等古  
船ノ多ク數ハ恐ラテ關東州ニ入籍スルニ至ルヘク斯  
クノ如キハ我邦船舶行政上不均等ノモノト  
認ムルニ付此ノ弊ヲ除去スル適當ノ方法ヲ  
講セテレムトヲ望ム

### 七 船舶研究施設整備

船舶研究所ヲ設立シテ本邦造船技術ヲ根  
本的ニ改善スルノ基礎ヲ樹ツルハ實ニ海運進

船兩業維持振興ノ期スル方策ノ第一ニシテ  
政府當局ニ於テモ夙ニ多大ノ注意ヲ拂ハレ  
既ニ船型試驗渠ヲ設置ニ着手セラレ我國  
船舶界將來ノ爲ニ多大ノ光明ヲ得タルヲ  
喜ブ然ルニ本邦ニ於ケル船舶研究施設ハ  
之ヲ歐洲第三流海國ニ比スルモ尙甚遠ニ及  
ハサルモノアリ而シテ船舶ニ關シテ試驗及研究ノ  
爲スノ必要アリト認メラルル事項ハ廣汎ニシテ  
投費亦ニ巨額ナク船型ノ試驗ハ單ニ其ノ一部



一過キルヲ以テ政府ニ於テハ一日ヲ忽ニセズ鏡  
意速ニ船舶研究施設ヲ整備スルノ  
必要アルモノト認ム

### 八 造船業ノ合同及整理

以上各項ニ記述シタル所ハ專ラ政府ニ於テ施  
設ヲ要スルモノナルカ此等ノ施設ヲシテ最モ適  
切、有效且普遍的ノモノトラシムル為ニ造船  
業者自ラ為スヘキ重要ナル事項アリ造船業  
ノ合同及整理即チ是ナリ

目下我國造船需給ノ大勢カヲ見ルニ供給力  
大ニ失レテ需要之ニ伴ハサルヲ以テ何レノ造  
船業者モ経営上ノ困難ニ陥レル現況ニシテ  
之ヲ大局ヨリ觀レハ今次ノ軍備制限交渉ノ  
結果造船業ハ或程度ノ縮少ヲ斷行スルコ  
トハ避ケ得ヘカラサル所ナリト認ム而カモ我國  
造船業ノ縮少ニ伴フ犧牲ハ何レノ造船  
業者モ之ヲ合擔スルコトヲ要スルノ理ノ當然  
ナリ又海軍擴張計畫ヲ採算シテ擴張整



備ニタル現在ノ造船設備及経営組織ハ今  
後ノ造船需給ニ備フル方法トシテハ十分敷正理  
ノ餘地アルモノト認メラル即チ大向高折ニ着  
眼シテ造船業縮少ニ伴フ犧牲ヲ各造船業  
者ニ於テ分担シ且經營及生産ノ経費ヲ節  
減ニシテ我國造船業ヲシテ充實健全ナラシム  
爲造船業者各自ノ努力ト收調トニ依リ合同  
及整理ヲ断行スルノ必要アルモノト望ム  
而カモ本件ニ関レテハ種々ノ困難及障害

惹起スヘク或ハ造船業者ノミノ努力ニ依リ  
テ右ノ目的ノ達成レ得ヘキヤテ保シ難キニ付  
政府也當局ニ於テモ充分考慮セラレテ適  
切ナル指導ヲ與ヘラレムヲト望ム

以上記述レタル所ヲ要スルニ今次軍備制限協  
定後ノ平和的經濟政策ノ樹立及營面ノ問  
題タル職工失業ノ防止並造船能力ノ維持ニ  
関スル方策尤ノ如シ

一政府ノ用ニ供スル艦船ヲ徹底的ニ内地民



間造船所ニ製衣造セラルト

二造船設備ヲ政府及公共団体ノ他ノ鉄

工事ニ轉換利用セラル様政府ニ於テ適當

ノ方針ヲ樹ワルコト

三本邦経済界ノ發展及造船能力維持ノ為

五十萬噸造船計畫ヲ樹ワルコト

四造船低利資金融通ノ途ヲ講スルコト

五優秀船及特殊船ニ對スル特殊保護トシ

テ航路補助金ヲ支給シ又大型優秀船ニ

就テハ政府之ヲ所有シ其ノ運航ヲ營業

者ニ委託スルコト

六船舶輸入税率ヲ適當ニ修正スルコト

七船舶研究施設ヲ速ニ整正備スルコト

八造船業ノ合同及整正理ヲ行フコト







普通貨物船 油槽船ヲ含ム					耐氷及碎氷船		
二、	三、	四、	六、		一、	二、	
〇	〇	〇	〇		〇	五	
〇	〇	〇	〇		〇	〇	
〇	〇	〇	〇		〇	〇	
計					計		
四	一	一	一	一	六	三	三
五	〇	〇	五	〇			
一	二	三	六	六	一	三	七
七	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	五	〇	五
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
					四、〇〇〇、〇〇〇		
					三、四、〇〇〇、〇〇〇		

合計

隻數  
總噸數  
製造費  
二二三、〇〇〇、〇〇〇圓  
五〇一、五〇〇噸  
八八隻



獨逸 米國 佛蘭西及伊太利ニ  
於ケル海運改良造船保護施設概要

管船局 監理課